

チーム医療 海外へ伝授

ベトナムから医師ら4人

西区「光臨会」 一体で挑む重要性 指導

広島市西区の医療法人「光臨会」が、ベトナムのダナン市にあるダナン病院と、脳神経外科医の養成や研修を通じて交流している。2006年からほぼ2年ごとに計4人、若手医師を受け入れ、手術方法などを指導。今年は5月22日までの1か月間、若手の医師と看護師計4人を招き「チーム医療」をテーマに研修した。荒木政理事長は「チーム医療の概念を伝えて少しでも役に立てれば」と話している。（立花宏司）

ボランティアとしてダナンで形成外科医の養成に取り組む知人の日本人医師から荒木さんが、ダナン病院の若手脳外科医を受け入れるよう頼まれたのがきっかけ。06年6月末から3か月の研修期間中、来日した医師はなまりのある英語で熱心に専門医に話しかけ、技術を吸収しようとした。その姿に心を打たれ、荒木さんは、往復の旅費を負担し、滞在中に寮を提供するとともに奨学金を贈るなどして計4人の医師を招いた。

荒木さんによると、ベトナムの手術のレベルは06年当時、「日本から20〜30年くらい遅れていた」というが、経済成長に合わせるか

右列前より（前列右から4人目まで）にリハビリ士、理学療法士、看護師、医師ら4人について説明する（前列左端）＝光臨会提供



のように格段に進歩している。前回（13年4〜5月）、受け入れた医師の手技は、「日本の専門医と遜色なかった」という。

昨年12月、荒木さんがダナン病院を訪問し、幹部と次回の研修内容について話し合った際に、同病院では外来、入院、手術、術後管理を、それぞれ別の医師が

科の医師各1人と看護師2人を、同法人の荒木脳神経外科病院に招いた。医師だけでなく、看護師や理学療法士らが担当となり、入院患者への口腔ケア、栄養管理、リハビリ、床ずれを防ぐ方法などについて指導した。

特に手術開始までの時間が10分遅れるごとに、術後に差が出るとされる超急性期の脳梗塞の手術も2回、見学させた。うち1回は午前0時頃、救急車で患者が運び込まれると、放射線科での検査と並行して、看護師や技師が手術室の準備を進め、約1時間で手術を始められるようにした。ベトナム人の医師らは「チーム医療の仕組みは素晴らしい」と感嘆していた。看護師らが交代する際に申し送りをしていく様子にも興味を持ち、熱心にメモをとるなどしていたという。

荒木さんは「最良の医療を提供するには、医師の技術だけでなく、様々な職種スタッフと一体で取り組むことが大切。すぐには難しいかもしれないがチーム医療の考え方を忘れず、将来はベトナムでも広げてほしい」と話した。